

2019年度より

介護福祉士養成課程の カリキュラムが新しくなります。



介護福祉の専門職として、介護職のチームの中で中核的な役割を果たし、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要があることから、介護福祉士養成課程の新しいカリキュラムが2019年度より養成校に順次導入されます。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
4年課程 大学等	周知徹底	新カリキュラム 導入			2023 年 国 家 試 験
3年課程 高校等			新カリキュラム 導入		
2年課程 短大・専門学校等				新カリキュラム 導入	



「介護実習」も変わります。

新カリキュラムの「介護実習」に、
3つの「教育に含むべき事項」が示されました。

新カリキュラムでは、科目のねらいや趣旨を共有できるよう、実際に教える際の「留意点」や「想定される教育内容の例」が示されています。



介護実習の教育内容

教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例
介護過程の実践的展開	介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。	1) 実習を通じた介護過程の展開
多職種協働の実践	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。	1) 実習を通じた多職種連携の実践
地域における生活支援の実践	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。	1) 対象者の生活と地域との関わり 2) 地域拠点としての施設・事業所の役割

Q 新カリキュラムのポイントを教えてください。

A 新カリキュラムには大きな柱が5つあり、③④⑤はこれまでの教育内容をさらに深化させるもの、①②は新しい内容となっています（以下参照）。

介護実習には、①②③の内容が大きく反映されています。

- ①介護職チームの中での中核的な役割やリーダーの下で、専門職としての役割を発揮することが求められていることから、リーダーシップやフォロワーシップを含めた、チームマネジメントに関する教育が拡充されます。
- ②地域共生社会の考え方と地域包括ケアシステムのしくみを理解するとともに、対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・事業所の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学びます。

- ①チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充
- ②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
- ③介護過程の実践力の向上
- ④認知症ケアの実践力の向上
- ⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上



Q 新しい教育内容に対応した実習は、いつからやらなくてはいけないのですか？

A 新カリキュラム導入は、2019年4月より大学等の4年課程から順次導入され、短大や専門学校などの2年課程は2022年度より導入されます。しかし、介護実習については、これを待たずに「新しい介護実習」を取り入れることが期待されています。



Q 介護実習指導者は、介護実習指導者講習を受けなおさないといけないのですか？

A 受けなおす必要はありませんが、新カリキュラムでは介護実習に新しい内容が追加されており、適切な指導をするためには、その内容の理解は欠かせません。そこで、日本介護福祉士会では、この教育内容等を学ぶためのフォローアップ研修の実施を計画しているところです。



Q 実習指導者以外のスタッフは、新しい教育内容に対応した介護実習にどのように取り組めばよいのでしょうか？

A 日本介護福祉士会では、実習指導者及びスタッフ、養成校の教員向けに、新しい教育内容に対応した「介護実習指導のためガイドライン」を作成しました。日本介護福祉士会のホームページで公開していますので、ダウンロードするなどしてご利用ください。

